

CW 勉強会の内容

JJ1SXA 池

CW 勉強会に参加できなかった数局の方から、どんな内容だったの？と質問がありましたので、要約して誌上に発表します。

ご存知のとおり、日本のアマチュア無線が、戦後再開されたのは 1952 年のことで、当初、第 1 級と第 2 級の免許でスタート、1960 年に、電話級、電信級が新設され、第 2 級の免許者は、電信の試験に合格すれば第 2 級、電信の資格を取らなかった者は、電話級になり、永い間その制度が続きましたが、1996 年には、電話級は第 4 級に、電信級は第 3 級に変わり、同時に、第 1 級の試験から和文電信が除かれ、且つ、各級共通送信試験が無くなりました、また、電話級の者が、電信の試験(25 字/分の受信)を受ければ、第 3 級に繰り上がりました、現在(2005 年 10 月以降)は、第 1 級と第 2 級の電信の試験は、欧文 25 字/分の受信のみになりましたし、第 3 級では、電信の実技が無くなりました、一寸寂しい気がします、世界的な傾向ですから仕方ありません。

そんな関係からか、第 3 級以上の資格者が一挙に沢山増えました、我が 240 グループでも、ほとんどの局が第 3 級以上の免許取得者になっています。

こんな背景のもと、CW 交信の基礎を勉強したいとの希望があり、勉強会開催の運びになったわけですが、別記事でも書きましたが、単に電信の運用ができるだけというのでは無く、常識・知識のある立派な CW マン・CW ウーマンになってもらいたい、また、超初心者も参加していただく勉強会ということで、内容を構成しました。

前置きが長くなりましたが、前記の趣旨を踏まえ、「① 先ず符号を覚えること・・・符号を覚えるのは、根気が大事、少し背伸びをしながら練習するのが良い、② CW 略語・Q 符号を覚える・・・伝送効率の悪い CW モードでいかに多くの情報を正確に伝達するかというためにできたものであること、略語の構成はどんな形かとの説明、③ ラバースタンプ QSO のパターンを知る・・・次に始める実際の QSO をワッチするのに大事、もちろん交信のためには覚えなければいけない、④ ラバースタンプ QSO ができるようになったら、パイルに参加したり、コンテストに参加で腕を磨く・・・コンテストに参加すると一段と腕が上がる、⑤ その後は、和文に挑戦しましょう・・・和文はまた新たに楽しみが増える」、こんな内容を逐一説明しましたが、相手のスピードに合わせることや、相手に取ってもらえる符号を送ること等のマナーや、基礎の基礎である、符号構成の比率、符号間のスペース、単語間のスペース等の詳細説明や、速度の基準になっている PARIS 方式は、1 分間に 50 短点分の長さであること、欧文暗語や、和文では 1 分間の字数は変わってくること等の説明をして、後は、送信はエレキーから始めてもらいたいと、理由を付して要望、操作方法の基礎を説明した後、縦振れ電鍵の基礎も若干説明、最後は、受信練習用のソフトの説明と、それを使った受信練習、続いて、送信練習と模擬交信を体験、この他にも諸々ありましたが、大まかにはこんな内容でした。